

### はじめに

モチベーション研究所の年次報告書『モチベーション研究』第9号をお届けいたします。本号は論文4本、研究所フォーラム抄録を1本掲載することができました。ご投稿いただいた皆様、ならびにフォーラムでご講演内容の掲載にご快諾いただきました松井豊先生（筑波大学人間系教授）、あらためて御礼申し上げます。

フォーラムについてもその回数を重ね本年度で第14回となりました。第14回は2019年10月に『オリンピック・パラリンピックは障害のある人のスポーツ参加に寄与するのか?』と題して澤江幸則先生にご講演いただきました。盛会のうちに終了しそれぞれのテーマに対する関心の高さを示すものとなりました。澤江先生のご講演内容につきましては次号にその要旨を掲載させていただく予定です。併せて次回のモチベーション研究所のフォーラムにもご期待下さい。

### 令和の時代に

2019年5月に新しい元号“令和”が始まりました。これまでの改元と異なり上皇陛下の天皇退位にともなうもので新しい時代の始まりを明るく喜びをもって迎えられた方も多かったのではないのでしょうか。巷でも話題になりましたが2019年10月22日(火)に行われた「即位礼正殿の儀」における突然の晴れ間と虹の出現は自然現象とはいえ、その演出効果には驚きを隠せませんでした。無礼を省みず申し上げれば、あくまでも自然現象であり特別のことが起きたわけではありませんが、その偶然性は人々に強烈な印象を与え、新しい時代の希望をそこに見出そうとする私たちの記憶に刻み込まれました。

ふと思い出したのが、藤原兼輔の『聖徳太子伝暦』と山崎涼子の漫画『日出処の天子』です。『聖徳太子伝暦』はその記述は太子の伝記であり信じがたいものが多く、『日出処の天子』はフィクションで史実としてとらえることは難しいことは理解していま

す。しかし、『日出処の天子』で雨が続き水害が懸念される中で厩戸皇子が参内すると突然晴れ、宮中ではよめきが起これ、皆がひれ伏すというシーンがあります。皇子は「雨はやむべくしてやんだのだ。空が明るいからゆるゆると来て到着同時に止むのを期待していたら、まさにぴったりとあてはまったわ」と内言します。その観察力と演出効果は絶大なものであり、周りのものたちはその神性に畏怖の念をもって接する様子が描かれています。時に人は自分では理解できない計算された言動に圧倒され、それを超常的な力と重ねて捉えてしまうことで、その現象について納得しようとする傾向があるのかもしれない。

漫画と重ねることにご批判もあるかもしれませんが不敬の意図は全くありません。テレビを通して流れた映像が私の記憶に強烈に焼き付いたものであり、「即位礼正殿の儀」でおこったことは意図せずとしてもその効果は十分であったようです。そして、新しい時代の明るい未来をその晴れ間に重ねたのも事実です。

理論や客観的データに基づく研究を前提とした『モチベーション研究』という学術雑誌においてこのような巻頭言としてこのような文章を残すことは適切でないかもしれません。しかし、私たちはすべての現象について解明したわけではありません。逆に解明できていない現象の方が多く、行動科学や心理学の研究が発展していく可能性は大いに残されていると確信しています。結果としてそれらは超常現象として位置づけられてしまうかもしれませんが、そのプロセスを辿ると科学的な解明も可能なものがあるのかもしれません。

昨年に引き続き本研究所の活動も少しずつではありますがその成果が表れ、新たな方向性についても検討の段階に入りつつあります。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜ることができそうです、よろしくお願いたします。